

## 第2回有識者懇談会でいただいた意見の概要

資料No. 3-1

	意見
将来人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新長岡版総合戦略に掲げる目標に達成しない場合でも、行財政運営が持続可能となるよう、今回の検討や公共施設のあり方については、厳しく現実的な数値に沿うべき</li> </ul>
新しい技術や発想による変革 (イノベーション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい技術の活用に関しては、手段を決める前に、業務上の課題の分析や生産性向上の目標設定を行うことが重要</li> </ul>
組織・定員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な住民ニーズを予測して柔軟に対応できる組織体制が望ましい。</li> <li>・定員管理上は職員の年齢構成にも留意が必要</li> <li>・外部から見た場合に各部課で業務が重複している印象があり、また、部課数が増えると従事者も仕事も無駄が生じやすいと一般的にも言われている。今後、職員数や人件費の状況も含め確認を行う必要がある。</li> <li>・職員の能力等に関しては、今後の職員に必要な能力や技能などを整理して、必要な能力等のある人を採用し、育成していく必要がある。</li> <li>・先の台風第19号の対応でも明らかなように、市職員だけでは対応には限界があるので、自助や共助と組み合わせることで地域を守ることが重要</li> <li>・市民や企業等を単に利用するのではなく、一緒に地域課題を解決していくという「協働」という姿勢が行政側には重要</li> </ul>
使用料・手数料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料の施設・サービスなどにも市民の税金が使われていることを踏まえれば、市外の利用者から応分の負担を求めることなども検討すべき</li> <li>・利用状況・稼働率や所要経費を明示し、「行政サービスにお金がかかっている」ということを市民から理解していただくことが必要（サービスに対してある程度負担するといった受益者負担の啓発が必要）</li> <li>・民間でも供給や実施が十分に可能な事業等を、行政が税金を使ってまで行うことは、民業圧迫にもつながるので、こうしたことの検討も重要</li> </ul>

## 第2回有識者懇談会でいただいた意見の概要

資料No. 3-1

	意見
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡市は公共施設が多い印象があり、市民一人あたり面積も新潟市より多く、現状の質を将来維持できないことは明らかなため、統合や廃止にも踏み込んで検討していくことが必要。一方で、行政は民間と異なり採算の合わない仕事も行う必要があり、赤字でも維持する必要がある施設やサービスもあるので、住民の真の要望を確認しながら見極めていくことが重要</li> <li>・市民や企業等を単に利用するのではなく、一緒に地域課題を解決していくという「協働」という姿勢が行政側には重要（再掲）</li> <li>・民間でも供給や実施が十分に可能な事業等を、行政が税金を使ってまで行うことは、民業圧迫にもつながるので、こうしたことの検討も重要（再掲）</li> </ul>
人材の育成 未来への投資	
補助金・負担金	